

## 1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

### (1) 主体的な学び

#### タブレット端末の録画・再生機能を有効に使って対話的に学ぶ

#### こんな実践

初めてのこぎり引きをして、もっときれいにまっすぐ切断できるようになりたいと願う生徒が、タブレット端末を利用してお互いの動作の映像を見返したり、教師の示範と比較しながら話し合ったりして、きれいにまっすぐ切断できそうなこぎり引きのポイントを見つけだす実践です。

実践学校 L 中学校

実践学年 1 学年

実践時期 6 月上旬

単元・題材名 「生活に生かすものづくりをしよう」

学習指導要領との関連：A 材料と加工の技術(1) ア

- 教師の行った示範実演をタブレット端末で録画しました。その動画を見ながら、のこぎり引きのポイントについて仲間と意見交換をしながら考えます。

「あれ？ のこぎりを引くときと押すときは速さが違うよ」、「本当？ 巻き戻してみて」、「引くときは強くて速いよね。押すときは少しゆっくりな感じだ」何回かくり返し再生をしました。

この後、右手をのこぎりに、自分の筆箱を木に見立てて、筆箱の上で速く引いたりゆっくり押したりしながら、のこぎりを引く感覚を考えていました。



#### ここがポイント！

- ・タブレット端末の録画機能を使うことで、映像を何度でも繰り返し再生し、見ることができます。
- ・「ここだ」と思うポイントでは一時停止をしたり、ゆっくり再生したりすることもできます。
- ・そのことで、生徒一人一人の学習するペースに合わせて、納得いくまで追究することができます。

- 仲間がのこぎり引きをしている様子を写真や動画に記録しています。その後、記録した動画を見ながら会話が始まりました。

「けっこう、のこぎりが縦になっている。当てる角度はいいんじゃない」、「押すときに力の入れすぎでのこぎりがグニャグニャ曲がってるよ」、「もっとねかせれば、刃がたくさん使えるんじゃないの」、「そうすれば長いひき溝ができて切りやすくなるよ。もっと

ねかした方がまっすぐ切れると思う」、「次は、ぼくの番ね。今より寝かせて切ってみるね」

切りやすくなる方法を考え合い、自分なりの解決策を見いだして活動に取り組む姿につながっていきました。



### ここがポイント！

- ・タブレット端末で録画をして再生することは、連続している動作を区切ったり、視点を決めて見返したりすることにより、「そうだったのか」と客観的に自分の姿を捉えることができます。
- ・実際の映像を見ながら仲間と話し合うことで、感覚ではなく客観的な事実として受け止めることができ、「そのとおりだ」と仲間からのアドバイスも受け入れやすく、次への改善策も考えやすくなります。
- ・単元の最初と最後の姿を比較する場面を設定すると、「上手くなっている」と自分の成長を感じたり、「ここがポイントだった」と成果を明確にしたり、新たな気づきがうまれるかもしれません。

### まとめ

タブレット端末の録画機能を使うことによって、過去の事実が再生可能になります。単元全体を見通し、どの場面で録画や再生の機能を活用すれば、児童・生徒の学びが深まるのかをあらかじめ予想し、適切に活用できるようにしていきましょう。児童・生徒から「先生、この前録画したのを見て、比べてみよう」などの授業の進め方の提案が出てくると嬉しいですね。

録画や再生の機能を使った場合と使わなかった場合では、どんな学びの違いが現れるのかを考えながら、効果的な活用場面に位置づけましょう。